

各 位

令和8年度稲作情報 第1号について

このことについて、送付しますので業務及び水稻栽培の参考にしてください。

令和8年度 稲作情報 第1号

唐津農林事務所 東松浦農業振興センター長

1 気象概況(観測点:唐津アメダスデータ)

※表記方法:6 半旬別(1ヶ月を6分割。1 半旬は1~5 日となります。)

気温:平均 降水量・日照時間:合計

月	半旬	平均気温 (°C)		最高気温 (°C)		最低気温 (°C)		降水量 (mm)		日照時間 (h)	
		平年	R8	平年	R8	平年	R8	平年	R8	平年	R8
3	3	10.0	8.8	14.4	14.4	5.6	4.0	19.6	3.0	28.1	31.7
	4	10.7	10.9	15.3	16.8	6.3	5.6	19.0	17.0	28.9	32.0
	5	11.2	12.1	15.8	18.1	6.8	7.7	19.0	31.0	30.3	29.4
	6	12.1	14.5	16.8	20.5	7.7	9.8	23.9	45.5	37.8	40.8
4	1	13.0	14.7	17.7	19.8	8.8	11.1	22.9	33.0	30.7	29.2
	2	13.5	15.2	18.1	20.8	9.4	8.9	24.6	32.0	30.0	28.6
	3	14.0	16.2	18.6	20.0	9.9	13.5	25.1	37.0	30.4	11.9
	4	14.7	17.2	19.3	22.2	10.5	13.8	24.8	7.5	30.6	8.7
	5	15.4	15.4	20.1	19.2	11.1	12.3	22.4	46.0	32.0	29.5
	6	16.4	16.1	21.2	20.0	11.9	12.9	19.6	20.0	34.4	12.0
5	1	17.4	16.7	22.4	22.0	12.8	12.4	20.1	26.0	35.5	43.0
	2	18.1	17.8	23.1	24.1	13.6	12.0	24.4	0.0	35.0	55.4

育苗期間である3月4半旬から移植が始まった4月4半旬までの気温は平年より2°C程度高く推移した。その後5月2半旬にかけて平年並みで推移した。

3月3半旬から降雨のない日が多く、3月4半旬まで平年より降水量が少なかったが、その後はまとまった降雨があり、平年より多く推移した。5月4日から現在にかけて降雨のない日が続いている。

3月3半旬から4月2半旬までは平年並みの日照時間であったが、その後は4月6半旬にかけて曇天が続き、日照時間は平年より短く推移した。5月1半旬以降の日照時間は平年より長く推移した。

2 生育状況

上場コシヒカリ情報田調査結果 鎮西町潟 4月24日移植 18.3株/m²(60株/坪)

(5月13日調査結果)

項目	本年	前年	平年	前年比・差	平年比・差	備考
草丈(cm)	24.0	22.9	27.3	105	88	低い
茎数(本/m ²)	80	71	86	112	92	やや少ない
葉齢(L)	5.5	5.9	6.1	-0.4	-0.6	遅い
葉色(SPAD)	—	29.2	32.7	—	—	—
葉色(葉色板)	—	3.3	3.9	—	—	—

※平年値:令和元年～令和7年までの値から最高・最低値を除いた平均値

3月22日に播種し、定植時の苗丈は16.0cm(平年値15.3cm)、苗齢は3.0L(平年値2.9L)であった。

移植後の曇天により、草丈は平年の9割程度と低くなっている。平年と比較して出葉数は少なく、茎数も平年の9割程度となっており、生育がやや遅れている。葉色の発現も遅れているものの、活着はよい。

3 今後の管理について

(1) 浅水管理の徹底により分けつの発生を促進し茎数の確保を図る(田面が露出ししない程度)。

除草剤の処理を終えた圃場では速やかに浅水管理に移行し、分けつの発生を促進してください。深水のままでは葉身が伸び過ぎ、分けつの発生が抑制され、今後の生育(収量)に支障をきたします。

(2) たい肥等の有機物をすき込んでガスの発生が多い圃場では、一度落水しガス抜きを行う。

ただし、強風の場合は稲体の水分収奪を少なくするために湛水してください。

(3) 補植が終わった圃場では、置き苗を早急に処分する。

置き苗は病害虫、特に「いもち病」の発生源となるので処分してください。

(4) まだ除草剤を散布していない場合は速やかに散布する。

除草剤を散布していない圃場では雑草の葉齢を確認して使用時期の範囲内で速やかに散布してください。ただし、表層剥離等で流れ葉となっている圃場では稲の回復を待つて除草剤を散布してください。

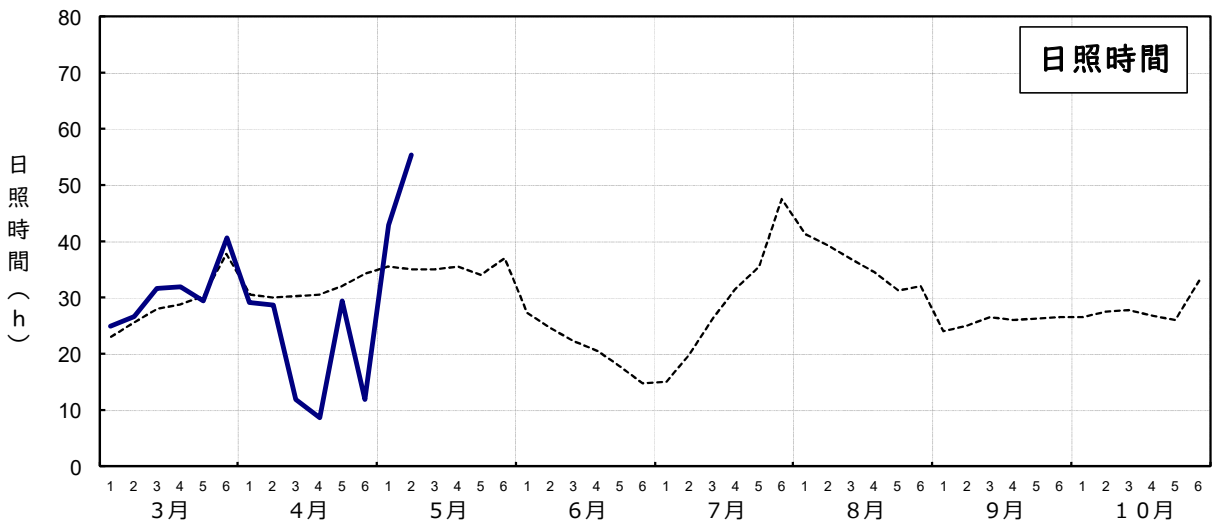
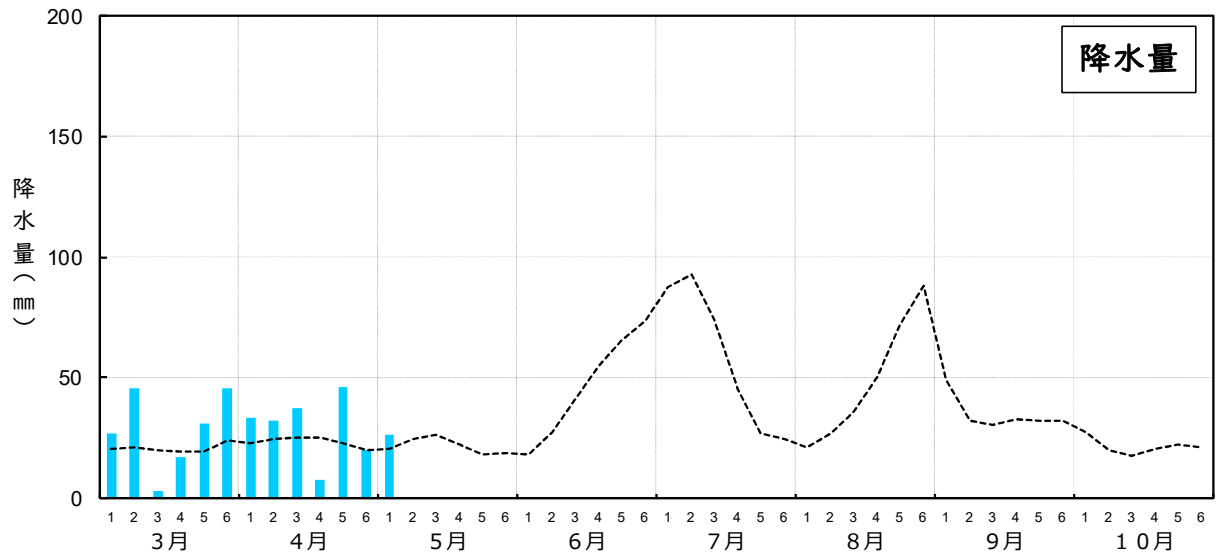
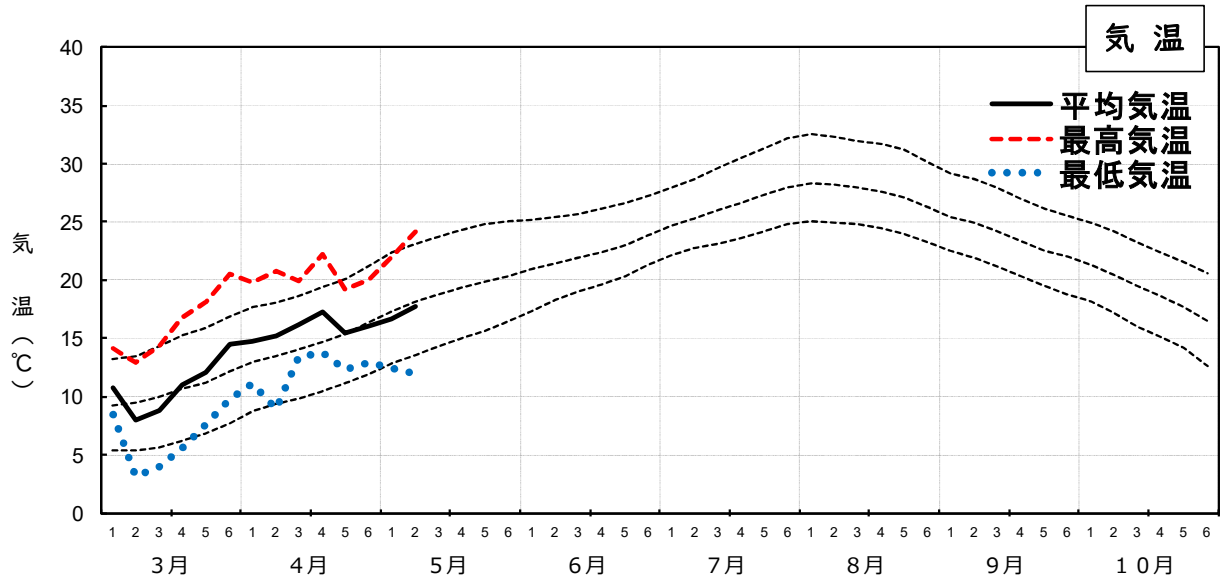
(6) 除草剤処理後に用水不足がみられた場合は体系防除を検討する。

除草剤処理後の用水不足により、田面が露出し、白乾状態になった場合は、除草効果が十分に得られない可能性が高いため、その後の雑草の発生状況を確認し、発生が多い場合は中・後期剤による体系防除を行ってください。

(7) スクミリンゴガイが多発する圃場では浅水管理に努める。

スクミリンゴガイが多発する圃場では、浅水にして貝の活動の抑制に努めてください。また、必要に応じてメタアルデヒド粒剤等による薬剤防除を実施してください。

令和8年産 水稻作付期間気象図 アメダス観測値(唐津)



注) 平年値: 平成 22 年~令和 2 年の平均値